

講義科目3-8

野生動物学モデル・コア・カリキュラム

全体目標

野生動物の生体機構のしくみを深く理解しながら、生態系のバランスを崩さぬように環境を健全な形で保全していく知恵や知識を学ぶ。遺伝子レベルから生態系レベルまで多種多様な観点から野生動物について学ぶ。

(1) 生物多様性

一般目標：

生物進化の所産である生物多様性とは何かを理解し、その保全に必要な概念を説明できる。

到達目標：

- 1) 生態学の基本事項を理解し、遺伝子、種および生態系の3つのレベルにおける多様性を説明できる。
- 2) 国際条約である生物多様性条約の内容を理解し、それを推進する新・生物多様性国家戦略を説明できる。

(2) 野生動物の形態

一般目標：

各動物種に見られる形態学的特徴を生息環境への適応として理解する。

到達目標：

- 1) 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類および魚類による形態学的な差異を説明できる。
- 2) 歩行、走行、飛翔、滑空および穴掘など行動学的特徴と形態学的特徴を符合させて説明できる。

(3) 野生動物の生理

一般目標：

野生動物が有する繁殖、冬眠、消化および栄養などの生理機構について、そのメカニズムと動物種毎の特徴を学ぶ。

到達目標：

- 1) 動物種毎の繁殖生理と栄養生理のメカニズムと特徴を説明できる。
- △2) 冬眠する動物の生理機構を説明できる。

(4) 野生動物の生態と生息環境

一般目標：

動物種による生態の違いとその生息環境との関係を学ぶ。

到達目標：

- 1) 特徴的な動物種の生態とその生息する環境を説明できる。
- △2) 環境収容力と動物種の生態や個体数との関係を説明できる。

(5) 野生動物の個体群動態

一般目標：

動物の個体群構造や個体数変動の要因やメカニズムを学ぶ。

到達目標：

- △1) 動物個体群の構造（メタ個体群を含む）およびその変動要因を説明できる。
- △2) 個体群動態の調査手法を説明できる。

(6) 野生動物の捕獲と不動物化

一般目標：

多種多様な捕獲・不動物化方法の存在を知り、動物と作業者の安全確保ならびにアニマル・ウェルフェアや環境への配慮が不可欠であることを学ぶ。

到達目標：

- 1) 野生動物の生息状況や種特性、不動物化の目的等を考慮し、安全かつ適切な捕獲・不動物化の方法を説明できる。
- △2) 代表的な野生動物不動物化薬の作用機序を理解し、捕獲により発生した負傷やショック等に対する適切な臨床獣医学的処置を説明できる。

(7) 野生動物の疾病

一般目標：

保全生物学的に重要な各種疾病について、そのリスク、疫学、発症機序、病態、病理、対策等を学ぶ。

到達目標：

- △1) 国際獣疫事務局（OIE）がリストアップした野生動物の疾病について、保全生物学的な観点からそのリスクを説明できる。

(8) 野生動物のリハビリテーション

一般目標：

野生動物の救護や野生復帰について、その活動の有用性を理解するとともに、生物多様性保全や感染症予防に関わるリスクやデメリットについて学ぶ。

到達目標：

- △1) 野生動物の多様な救護原因および野生復帰におけるリハビリテーション技術について説明できる。

(9) 動物園学

一般目標：

動物園水族館の機能や社会的役割および臨床技術を学ぶ。

到達目標：

- 1) 動物園水族館の社会的役割（レクリエーション、教育、研究、保全）を説明できる。
- △2) 動物園動物に特有の疾病とその治療法および予防法を説明できる。

(10) 絶滅危惧種の保全

一般目標：

絶滅危惧種およびその回復手法を学ぶ。

到達目標：

- 1) 絶滅危惧種について説明できる。
- 2) 生息域内および生息域外保全について説明できる。

(11) 野生動物の保護管理

一般目標：

野生動物の保護管理は科学的・計画的に行うべきであり、モニタリング調査等に基づく順応的管理が不可欠とされていることを学ぶ。

到達目標：

- △1) 野生動物の保護管理は、増加している種と減っている種の両者を対象とする対策であることを理解し、科学的・計画的な保護管理ならびに特定鳥獣保護管理計画について説明できる。

(12) 外来生物

一般目標：

外来生物の生態系および人間生活等への影響とその対策を学ぶ。

到達目標：

- 1) 外来生物の定義、外来生物による生態系および人間生活等への影響とそのメカニズムを説明できる。
- △2) おもな外来動物への対策を説明できる。

(13) 野生動物の法制度と政策論

一般目標：

野生動物に関わる法政策を学ぶ。

到達目標：

- 1) 野生動物の保護管理および飼育・流通に関わる法政策を説明できる。